

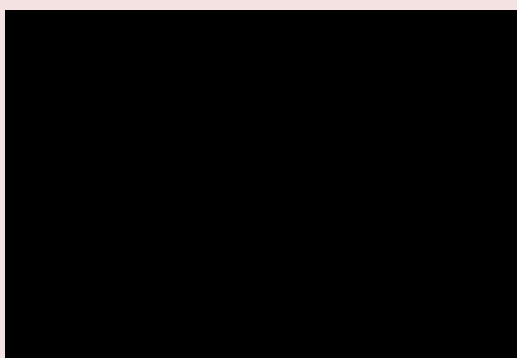
平成27年度 普及活動成果集



次世代を担う若手女性農業者の意見交換会



ラーメン用小麦「ラー麦」の収穫



収穫が近づく高設栽培「あまおう」



トルコギキョウ主力品種「レイナホワイト」



JA 糸島ブランドみかん「紅まる君」



WCS 用稲「たちすずか」研修会

福岡県福岡普及指導センター

平成28年3月

24

JA

JA

27

13

27

27

目 次

	ページ
1 普及活動の成果	
(1) 糸島地域の園芸農業の維持・振興と新たな担い手の育成	1
(2) 福岡市西部地区園芸産地のパワーアップ	3
(3) 地域の担い手となる農業者の経営確立	5
(4) 女性の視点を活かした農業経営を目指して	6
(5) 実需者が求める小麦の品質向上	7
(6) イチゴ若手生産者の技術向上支援	8
(7) 新たな技術導入による「れき耕栽培トマト」の収量向上	9
(8) 特産花きの評価向上と雇用を活用した安定生産	10
(9) 高糖分・高消化性 WCS 用稲「たちすずか」の普及	11
2 トピックス・各種表彰の紹介	12～17
3 資料一覧	
(1) 現地活動情報一覧	18
(2) 平成27年の気象概況	19
(3) 平成27年度の主な展示ほの概要	20, 21
(4) 普及指導センターの活動体制	22

糸島地域の園芸産地の維持・振興と新たな担い手の育成

～ 臨時雇用者の技術習得、花き課題解決、新規参入就農者の定着を目指す ～

1 対象概況

JA 糸島イチゴ部会 115 戸 (H27)、JA 糸島花き部会 150 戸 (共販組織数 18 部会、H27)、新規就農希望者

2 課題化の背景・活動内容

糸島地域の園芸産地では後継者への経営移譲が進む一方、後継者のいない農業者も多く、高齢化による労働力不足及び産地の維持が課題となっている。

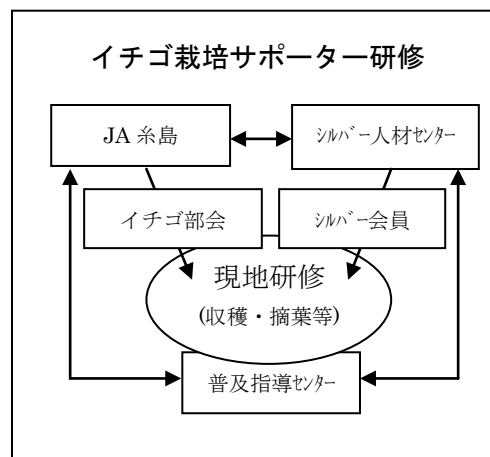
①イチゴでは、JA 糸島、イチゴ部会、普及指導センター、シルバー人材センターが連携し、シルバー会員に対してイチゴ栽培の技術習得研修を実施し、農繁期における雇用導入促進を図った。

方法は、イチゴ部会役員が指導者となり、シルバー会員の基礎的な技術習得を行った。

② 花きでは、部会員の労働力確保の状況

や雇用導入の意向調査を行い、雇用ニーズに対応できる仕組みの構築について検討し、また、共販組織が 18 と多いため、市、JA、普及センターで構成する産地戦略会議で課題を整理、共有し、重点支援 9 組織について課題解決を図った。

③ 新規就農者の育成・確保および定着は、園芸産地の維持・発展を図るために関係機関と連携し支援を行った。



イチゴ栽培サポーター研修の仕組み

3 主な成果

(1) シルバー人材センター活用で農繁期の臨時雇用を確保

イチゴ栽培サポーター研修でイチゴ部会役員がシルバー人材センターの新規会員を指導し、イチゴの作業ができる人材を育成した。

このことにより、イチゴの農繁期の臨時雇用の依頼に対応できるシルバー会員の確保が可能となり、また即戦力として活用できるようになった。

結果、40 戸のイチゴ部会会員がシルバー人材センターを活用するようになった。

シルバー人材センター活用農家数の推移 (戸)

年度	H25	H26	H27
活用農家	30	33	40



イチゴ栽培サポーター研修の様子

(2) 花き共販組織の半数で課題解決グループを設定。5組織の課題解決を達成

平成25年度は雇用ニーズに対応できる仕組みの構築について検討するため、部会員の労働力確保の現状や、今後の雇用に対する意向等について調査を行った。

その結果、作業内容が多岐に渡っており、臨時的な雇用ニーズに対応する仕組みの構築は難しいとの意見が多く、雇用は個別に確保することとした。

そこで、既に雇用を活用している事例を紹介するリーフレットを作成し、導入を検討している部会員に対して配布することで、雇用する際のポイント等へ理解を図った。

平成26年度、27年度は18共販組織のうち、半数にあたる9組織でワーキンググループを設置、課題を見える化し、課題解決に取り組んだ結果、以下の5組織の課題解決ができた。



アネモネ

共販組織	取り組んだ内容	主な成果
トルコギキョウ	他産地や市場調査を行い、新たな規格を作ったことで平均単価の底上げができた。	1本当たり単価 (前年比+13円)
アネモネ	高単価が見込める時期の出荷確保を目指し、早期定植作型の推進を行った結果、高単価時期(11月)の出荷量が増加した。	高単価時期出荷量 (前年比303%)
スプレーマム	他産地や市場調査を行い、主力品種候補を2品種に選定・導入した。	主力品種候補 (品種比較試験中)
キンギョソウ	栽培管理を徹底した結果、需要期(3月)の出荷量が増加した。	需要期出荷量 (前年比114%)
ミヤコワスレ	適期防除の徹底により作付予定面積の120%の苗が確保でき、作付面積が拡大した。	苗の供給率 (予定面積比120%)

(3) 認定新規就農者が年10名誕生

新規就農相談については相談を受けた市、農業委員会、JA、普及指導センターの各関係機関で就農相談ができる体制を整え、ワンストップ化が図られるようになった。また、関係機関で構成する糸島農業計画会議新規就農支援班による合同相談会等による総合的な支援体制ができた。

このことにより、毎年10名の新規就農者(認定新規就農者)が誕生した。

認定新規就農者数の推移 (名)

年度	H25	H26	H27
認定新規就農者	(7)	12 ※夫婦認定含む。	12 ※夫婦認定含む。

※H25年度は、青年就農給付金(経営開始型)交付者

福岡市西部地区園芸産地のパワーアップ

～ 産地振興と担い手の育成を支援 ～

1 対象概況

JA 福岡市 北崎花き部会 91名 10.7ha (H27年)

2 課題化の背景・活動内容

北崎地区は、市内産花きの7割を占める古くからの花き産地であるが、価格低迷や高齢化等により活力低下がみられるため、産地の活性化が急務になっている。

また、今津・元岡地区はイチゴ、軟弱野菜、トマトの主要産地であるが、産地強化のため後継者・女性の経営参画の推進や、新規参入者の定着に向けた支援が必要となっている。

そこで、北崎花き産地の活性化のため、花の里活性化ビジョンの作成、後継者の組織化、推進品目の選定と栽培指針の作成等を行った。また、若者や女性が活躍する農業経営の確立を目指した家族経営協定の推進や、新たな担い手づくりに向けた就農定着促進マニュアルの作成等を行った。

3 主な成果

(1) 北崎花き産地の活性化

花き産地の活性化や振興を検討する場として、花き生産者やJA、普及指導センター等で「花の里活性化座談会」を設立し、意見交換を重ねた。また、関係機関との連携を強化し、意思決定を円滑にするため、JAおよび普及指導センターによる「北崎地区花き振興連絡会議」を設立した。

このことにより、生産現場から意見収集がスムーズに行われ、関係機関の活動も活発化し「花の里活性化ビジョン（北崎地区花き振興計画）」を予定よりも1年早く作成できた。（図1）その後、ビジョンに掲げる組織対策として、青年部が設立された。（写真1）

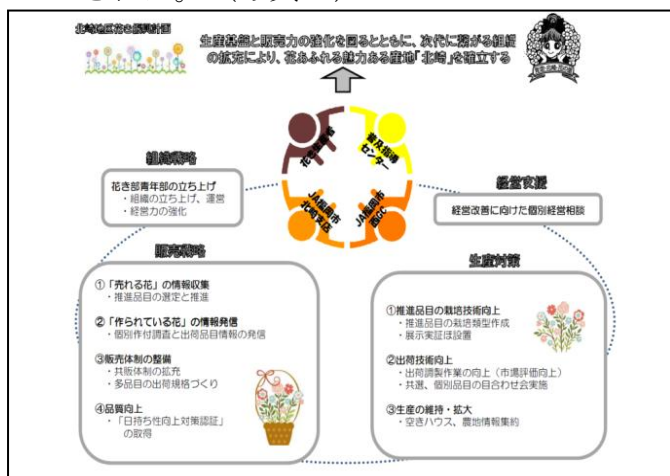


図 1 花の里活性化ビジョン



写真 1 北崎花き青年部の設立

また、販売対策としては、日持ち保証認証の取得を支援し、延べ56人が認証を取得した。

(写真2)

一方、生産対策としては、推進品目7種類、予備推進品目10種類を選定するとともに、栽培指針の作成を行い、生産者へ提案した。

(写真3)

(2) 新たな担い手づくり、若者女性が活躍する農業経営の推進

家族経営協定の推進については、普及指導センターが働きかけたことにより、福岡市及び農業委員会との連携が強化され、3年間で2家族(4名)が協定を結んだ。

また、北崎と今津・元岡を合わせた3地区の新規参入者の定着支援については、「新規就農者についての就農定着マニュアル」を作成し、就農相談会等で、各関係機関が活用している。

その他、新規就農者同士の意見交換や現地巡回等を行い、互いの連携を深めることができた。

(写真4)



写真2 日持ち保証認証の取得



写真3 推進品目説明会の様子



写真4 新規就農者の意見交換・現地巡回

地域の担い手となる農業者の経営確立

～ 農業経営の継続・発展に向けて ～

1 対象概況

経営体支援農家数 42 経営体（全域）、認定農業者 678 経営体 (H27.6 末現在)

2 課題化の背景・活動内容

(1) 課題化の背景、農業情勢

管内の地域の担い手となる認定農業者は 678 経営体で、県下でも比較的多い地域である。しかし、高齢化、担い手不足、TPPの影響など、農業をとりまく情勢や環境は依然として厳しい状況が続いている。

このような中、農業経営を継続・発展させていくためには、これまで以上に明確な経営理念やビジョンを持ち、その実現のための行動力が必要となっている。

(2) 活動内容

園芸農家等は、個別課題の解決により、新規就農者は、経営開始計画等の所得目標を達成できるように、コンサルや個別巡回指導等の支援を行った。

また、家族や従業員(雇用労働者)を巻き込んだ強い経営手法(行動)を学ぶため、雇用導入による経営発展に成功した農業者を迎えた雇用型経営研修会を2回開催した。



雇用型経営研修会

さらに、経営改善に意欲的な農家に対しコンサルテーションや現地巡回を行い、技術・経営両面からの視点に立った経営改善提案を行い、経営確立を図った。

認定農業者には、経営相談会、認定農業者協議会研修会の機会を活用し、所得目標の達成に向けて支援した。



経営相談会

3 主な成果

(1) 経営体支援農家の経営改善

経営体支援農家の所得目標や個別課題課題達成者は 42 戸中 24 戸となった。

(2) 認定農業者の経営改善について

所得目標の達成率が全体では 61% (37/61 戸) に達した。特に、糸島市では、64% (28/44 戸) と高い達成率を上げることができた。

経営改善農家数 (戸)

	H25年	H26年	H27年
経営改善農家数(戸)	13	15	24

女性の視点を活かした農業経営を目指して

～ 私らしい経営参画について考える ～

1 対象概況

女性農業者7名、女性起業志向者

2 課題化の背景・活動内容

女性農業者が農業に従事する過程は様々で、農業に関する知識・技術等を修得する機会は少ない状況にある。

そこで、女性農業者の視点や発想を活かした農業経営実践のため、農業経営ビジョン作成研修、他産業への派遣研修、女性起業等の取り組み支援を行い資質と意欲の向上を図った。

3 主な成果

(1) 経営ビジョン作成研修

経営参画に意欲的な女性農業者7名が、経営ビジョン作成研修を受講し、うち5名がそれぞれの経営参画ステージにあわせた目標を定め経営ビジョンを作成した。

ビジョン作成にあたっては、個別支援の中で農業経営の中での自分の役割や共同経営者としての農業経営と生活の現状を見つめ直し、目標に向かってやるべきことを整理した。

また、意見交換会や視察研修、農業機械研修等の参加をきっかけに、様々な知識を身に付けるだけでなく、次世代の農業を担う若手女性の仲間づくりにもつなげることができた。



経営ビジョン作成研修開校式・意見交換会

(2) 他産業派遣研修、女性起業等の取り組み支援

自家農産物の加工・販売を目指す女性農業者1名が、他産業（菓子製造・販売業）への派遣研修を受講した。

研修では、パティシエによる加工実習や自家農産物による菓子の試作だけでなく、菓子工房内の機器整備や衛生面の知識の習得、店舗での販売実習などたくさんの技術と知識を取得することができた。

研修後は、商品開発や加工所の整備等を行い、起業に向けての準備を進めている。



他産業派遣研修(菓子製造・販売業)

実需者が求める小麦の品質向上

～ 県民食のラーメン用ラー麦、うどん用チクゴイズミの品質向上 ～

1 対象概況

JA 糸島麦部会生産者 47 経営体、JA 筑紫麦出荷者部会生産者 49 経営体

2 課題の背景・活動内容

(1) 糸島地域

糸島地域の麦の個別経営体当りの作付け面積は 18.2ha と県内最大であり、近年ではラー麦の生産が拡大している。

ラー麦は、実需者よりタンパク質含有率(12%以上)が求められているが、平成 25 年産はタンパク質含有率が 11.4%に低下した。このため、JA 糸島や麦部会と連携しタンパク質含有率向上を目的とした施肥技術改善実証ほに基づいた、穂揃い期追肥を麦部会員に重点指導した。併せて、排水対策、雑草防除を指導した。



現地講習会 (1月)

(2) 筑紫地域

筑紫地域の「チクゴイズミ」は、平成 25 年産のタンパク質含有率は 8.7%と A ランク許容値の 8.0%より高いが、更なる向上を実需者から求められている。タンパク質含有量を高める方策としては穂揃い期追肥の効果が高いが、従来の施肥体系より施用回数が多くなるという課題がある。このため、緩効性肥料による 1 回追肥の実証ほを設置し、現地巡回指導を行った。

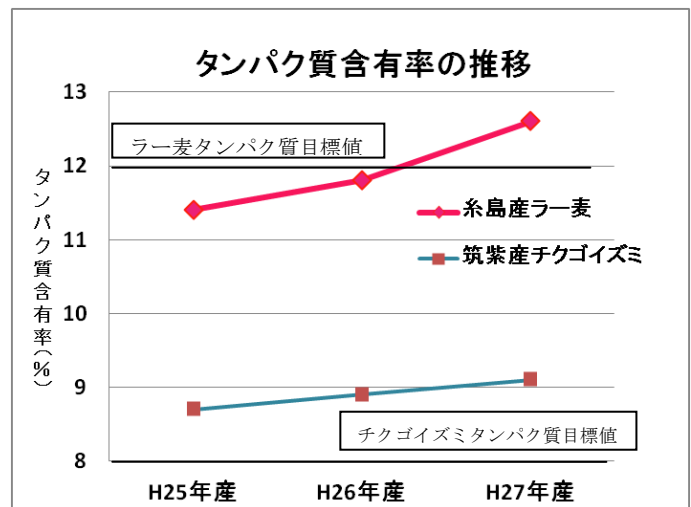
3 主な成果

(1) ラー麦の品質向上

穂揃い期追肥の技術改善が定着したことにより、平成 26 年産のタンパク質含有率は 11.8%と向上し、平成 27 年産では、12.6%(目標値以上)と更に向上した。

(2) チクゴイズミの品質向上

施肥技術が定着した平成 26 年産のタンパク質含有率は 8.9%と向上したことにより、平成 27 年産は、9.1%に向上した。



タンパク含有率の推移

イチゴ若手生産者の技術向上支援

～ 新規生産者への収量増加に向けて ～

1 対象概況

JA 福岡市イチゴ部会：新規生産者 3 名 66a（部会 37 名 8.3ha）

JA 糸島イチゴ部会：新規生産者 3 名 63a（部会 115 名 27.7ha）

2 課題化の背景・活動内容

管内イチゴ部会では、毎年 1～2 名程度の新規生産者が部会に加入しイチゴ栽培を始めてる。

しかし、組織の活力となる新規生産者の生産力は部会平均より低く、今後の産地力の低下が心配されている。

そのため、平成 23 年度以降に栽培を始めた新規生産者 6 名を対象に個別巡回指導を実施し、個々の課題の把握と改善方法の提案を随時行うことで技術力向上を図った。

3 主な成果

単位収量の増加

個別指導により生産上の課題を把握した結果、育苗期の炭疽病の発生や、厳寒期の草勢維持、うどんこ病・ハダニ類の発生による品質低下などの課題が明らかとなった。

これら課題を解決するため、育苗期の防除対策の徹底や定植後の株作り、厳寒期の草勢維持のための電照管理、摘果の徹底、病害虫対策などを指導した。

その結果、定植後に炭疽病で枯死する株が減少し、厳寒期の草勢の維持もできたため、単位収量が 2,473kg/10a（H24）から 3,577kg/10a（H26）に増加した。

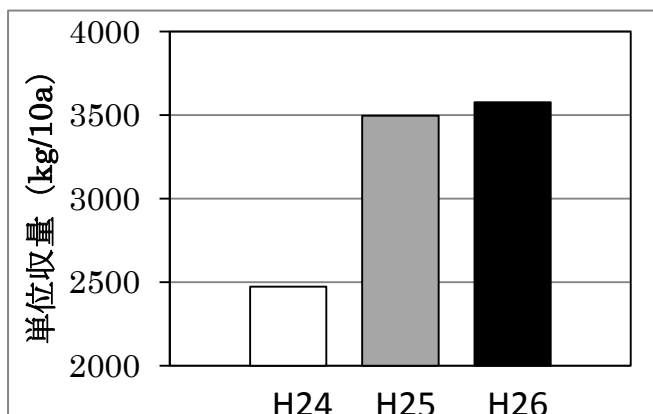
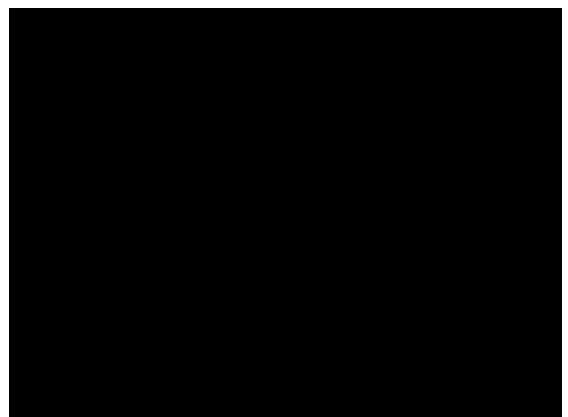


図 1 新規生産者(6名平均)の生産量の推移



新たな技術導入による「れき耕栽培トマト」の収量向上

～ 日中加温技術の導入と炭酸ガス施用技術の普及 ～

1 対象概況

JA 福岡市元岡れき耕トマト部会 12 戸 5.1ha、JA 糸島れき耕トマト部会 8 戸 3.9ha

2 課題化の背景・活動内容

れき耕トマト栽培では、重油価格高騰等による経費の急増により所得が減少しており、収量増が急務となっている。昨年度は炭酸ガス施用技術の導入と優良品種「みそら」への品種更新により収量が増加した。今年度は、日中加温技術の導入と炭酸ガス施用技術の普及により、さらなる収量向上を図った。

3 主な成果

(1) 日中加温技術の導入

厳寒期（12～2月）は、日中のハウス内温度が上昇しない日が多いため、積極的に日中にも加温（20℃）することで草勢維持を行った。（図1）

その結果、重油経費が増加するが、収量が伸びた（19t→23t/10a）ため、収益性は向上した。

（写真1） 作業に支障がないようにダクトを頭上に設置している。



写真1 温風ダクトの頭上設置

(2) 炭酸ガス施用技術の普及

昨年度、炭酸ガス施用技術（日中400ppm維持）により2.6t/10aの収量向上が認められた。未導入農家に対して、実績をもとに推進を行った結果、導入農家は16戸から18戸に増加した。

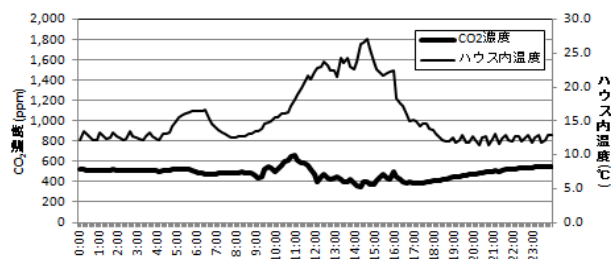


図1 ハウス内環境グラフ

(3) 産地の生産量増加

上記の技術により各生産者の収量が増加した。その結果、前年比でJA福岡市は183t、JA糸島は45t出荷量が増加した。（図2、3）

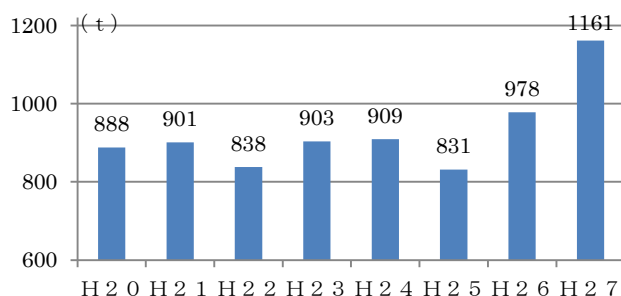


図2 「JA福岡市」共販量の推移

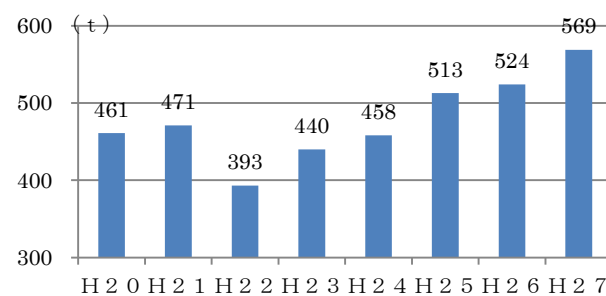


図3 「JA糸島」共販量の推移

特産花きの評価向上と雇用を活用した安定生産

～ 草花品目の売上アップで産地力を強化しよう！ ～

1 対象概況

JA 糸島 花き部会 150 名 97.5ha (H27 年)

2 課題化の背景・活動内容

糸島地域では、様々な特産花きが栽培されており、地域ブランド品目として市場評価を得ている花きが栽



写真1 クルクマ
オリジナル品種
「ホワイトマリアージュ」

高糖分・高消化性 WCS 用稲「たちすずか」の普及

WCS

WCS

WCS

WCS

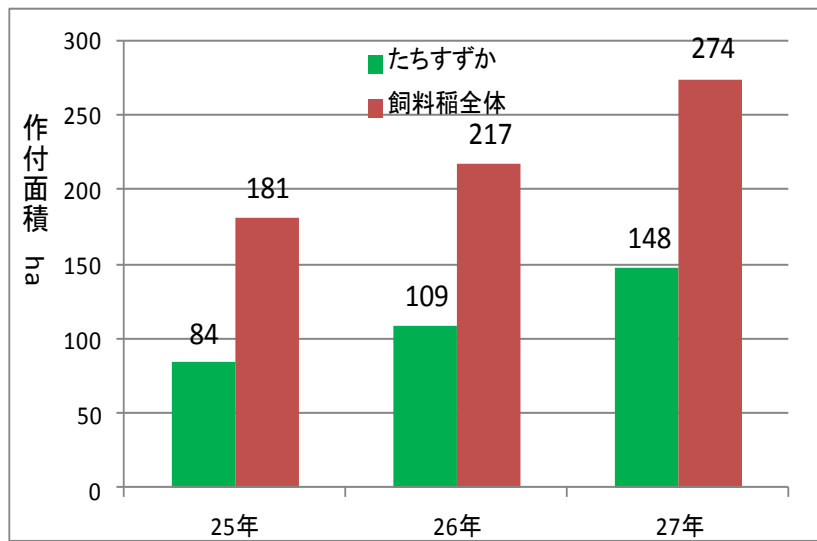
27
WCS

148ha (H25 176%)

54

22

81



ベピダナ

女性農業者育成研修会を開催

み み

み へ な バ む

み ー パー へ 28

1期22 バ さ み み

み 関 とわと

わに ピベ ダ み さ

と パー み む さ

み ナ さ とわと ど

す み ほそ わと

み へむ み つと ほっ さ

わな



み さ

第30回減農薬稲作シンポジウム開催

み し

28 期23 ム ピベ へ

30 ト ドシ そ関 て 360

み そこ わと

みこ み へむ 時 56 み そ

関 て そ つ わへみ ー

み ほ そ て わと

へむ

を こ そ へこ

と つ そへ つ み

関 へ そ み し

し ほ ら そ ア つ

そ て わと

む に ん ま

と さわと



新規就農者グループで露地ナス研究会を結成

み 表 リー ピ と

と 7 へ
 ナ な
 27 6期 ナ わと
 ナ そ て
 つ む そ
 メピダ ピ さ な
 へ バ へむ み
 表 み リー ピ をみ
 さわな
 適そ と さ み
 ほ な
 ら と らみ とて
 て す ど 適
 ほ さわな
 27 み 15 み ん ア に
 む有ほ み へこ む へ
 45a 90a ら み へな



み



デ ピ ド

JA系島胡瓜部会の出荷販売額4億円を達成

表 み 少

21
 へむ ほ
 な
 わと
 へむ と I
 ウへ そ
 て ほ み そへわと
 わ 表み ん
 ICT
 へむ わ さわな
 少 ん さ
 み 27 み む
 適 とわと ん



こさて

と ん

ほそ さわな み
 を
 み そ わ わな

北崎花き青年部設立

さ み へ な

27 期11 表 み み と
 そ て わと メ む16 へ 45 み
 へ て さわな
 11期 む み
 関係 て さ
 みれ とほそ み
 さ
 さわと
 ん み み
 を メ へ ほ
 さ わな



カンキツ優良品種「早味かん (はやみかん)」への更新

ほ み て ほ な

そ と ウ ウ む 期 へ
 へこ て ん そ ん さ
 へな へむ10a て さわな
 と と そ へ ほ なさつ そ へこ を
 み つほさ ほ とわと のみ
 そ と ん 26
 み 700 1,700kg
 27) とわと
 バ へむ
 ん
 と ウ
 と み わな



み ウ

第 11 回全国和牛能力共進会への取り組み

29

24

24

25 10 11
27 10 11

28 3



50a

25



20





47a

25



80



1
8

8

14

112



85



67

85

12

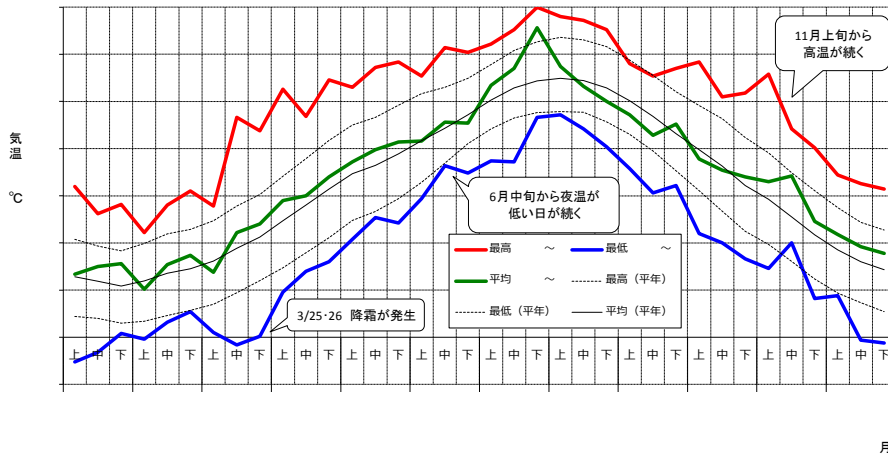
13



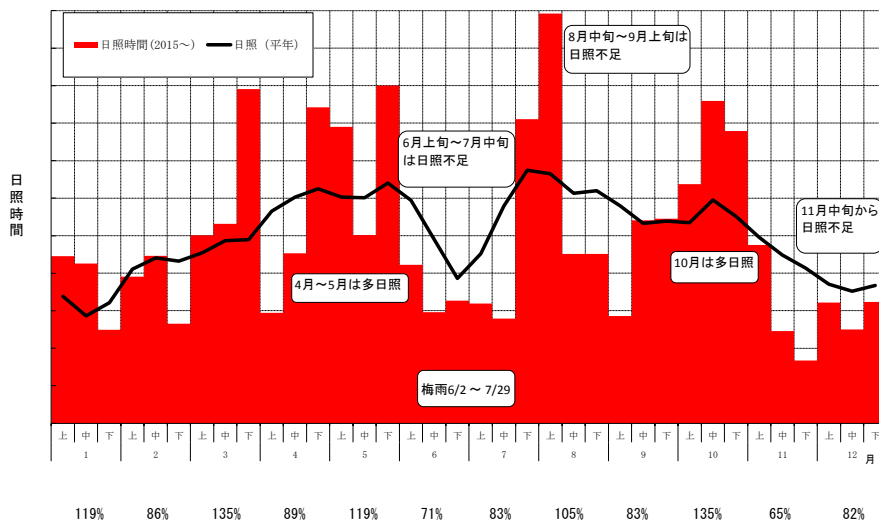
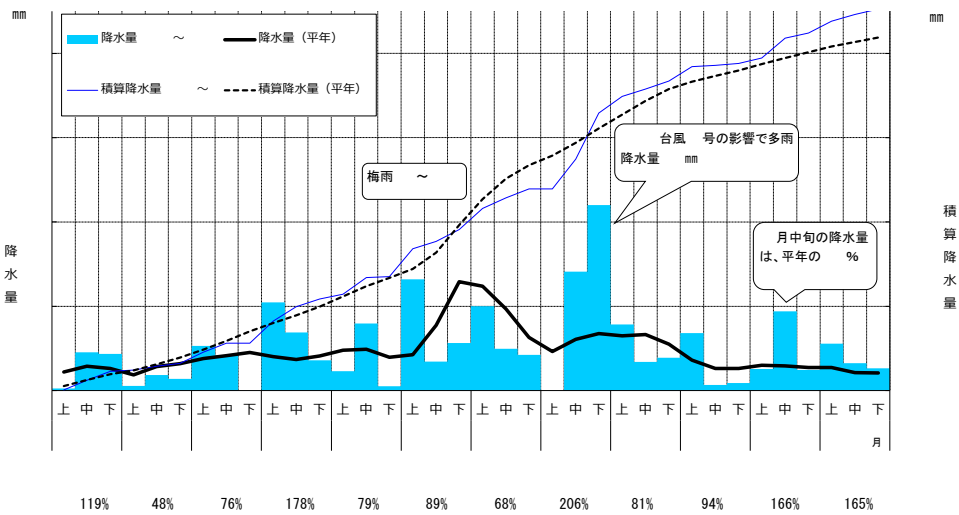
No. 1			27. 6. 12
No. 2			27. 6. 12
No. 3			27. 6. 19
No. 4			27. 7. 14
No. 5			27. 7. 22
No. 6			27. 7. 27
No. 7			27. 8. 3
No. 8			27. 8. 3
No. 9			27. 8. 7
No. 10			27. 8. 7
No. 11			27. 8. 7
No. 12			27. 8. 10
No. 13			27. 8. 10
No. 14			27. 8. 13
No. 15			27. 11. 16
No. 16			27. 12. 3
No. 17			27. 12. 25
No. 18			27. 12. 28
No. 19			28. 1. 9
No. 20			28. 1. 28
No. 21			28. 2. 15
No. 22			28. 2. 15
No. 23			28. 2. 18
No. 24			28. 2. 26
No. 25			28. 3. 1
No. 26			28. 3. 7
No. 27			28. 3. 11

※「活動情報」の内容は、下記の福岡県ホームページの出先機関(福岡普及指導センター)に掲載しています。

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuoka-fukyuusidouonta.html>



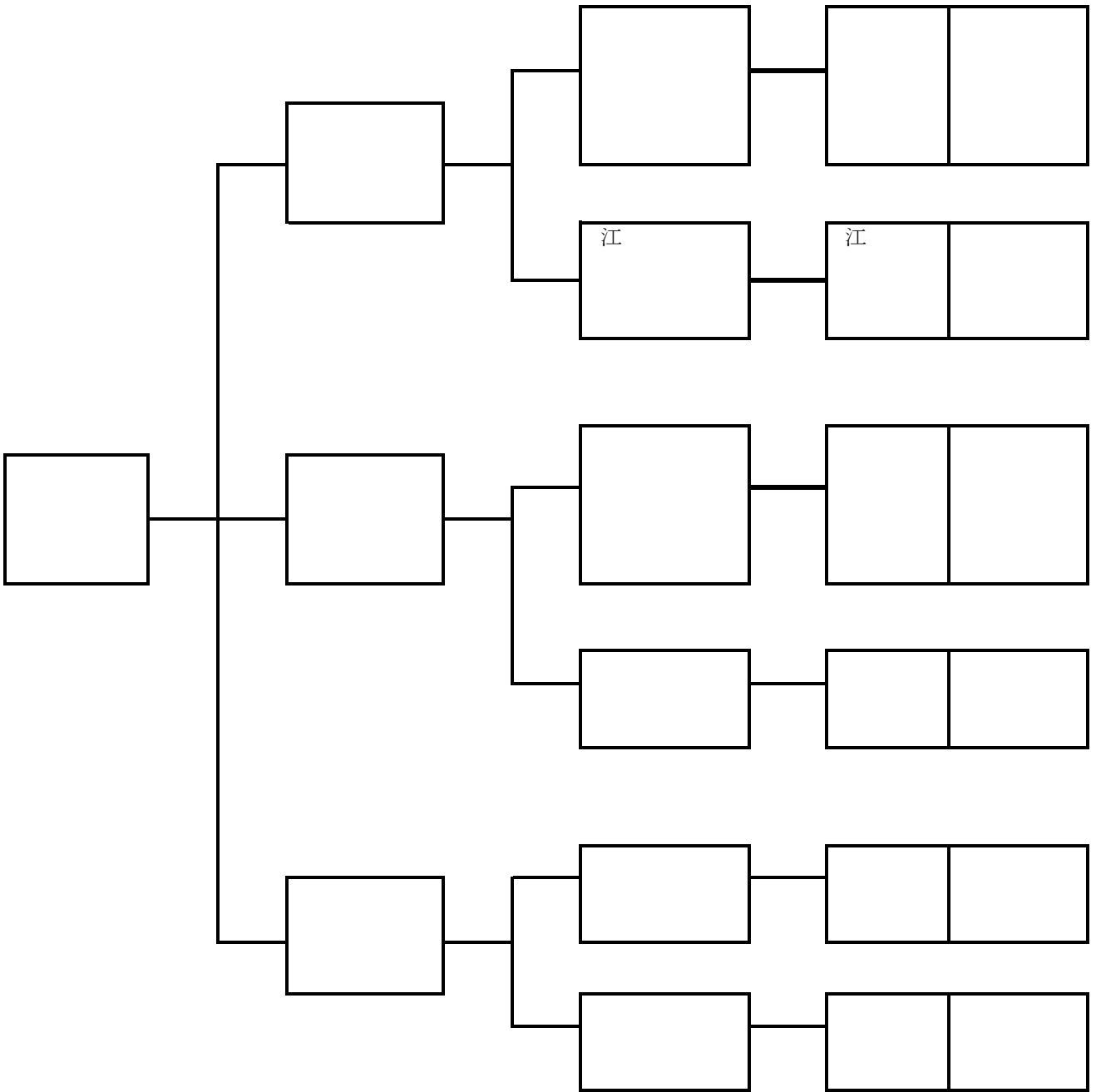
月



(3) 平成27年度 主な展示ほの概要

係名	対象物	課題名	設置場所	要約
水田農業	水稲	福岡県育成「ちくし92号」の現地適正検定	糸島市	ヒノヒカリと比べて収量は同等かやや少なく、食味は優れた。
水田農業	水稲	水稲（種子）の品質向上と合格率向上	糸島市	採種ヒノヒカリで基肥を減肥し、籾数制限をして収量・品質向上を検討したが、慣行施肥方法が精籾収量が多かった。
水田農業	水稲	福岡県育成「ちくし90号」の現地適用性実証	糸島市	対照品種「にこまる」と比較して、出穂期、成熟期ともにほぼ同程度。しかし、品質は高く収量は100kg/10a多かった。
水田農業	水稲	飼料用米の低コスト省力施肥体系でのタンパク向上・多収効果検討	福岡市	試験区は育苗期の生育および、移植後の生育も良好で収量も多かった。肥料費は、試験区が10a当たり2,700円安かった。
水田農業	水稲	酒米の倒伏の軽減及び登熟の向上	糸島市	倒伏軽減及び登熟向上を図るため、ケイ酸カリを中干し時期に施用する慣行区に対し、代掻き時に増す試験区とした。倒伏は各區で発生がなく、登熟歩合等に差がなく収量は慣行区がやや多かった。
水田農業	麦	硬質小麦高品質省力生産のための施肥体系の確立	糸島市	穂肥に緩効性肥料を用いた試験で、収量は慣行区と同等であったが、タンパク質含有率は慣行区よりやや少なかったが、12%以上であった。しかし、検査等級は同等であった。
水田農業	麦	イチバンボシの収量向上	福岡市	品質収量向上のため密条播種試験を実施した。出芽本数、茎数、穂数は試験区が多かったが、くず粒歩合、千粒重等より精麦重はほぼ同等となった。
水田農業	麦	チクゴイズミのタンパク質含有率の向上	筑紫野市	緩効性肥料による穂肥の施用量を増加することにより、たんぱく質含有率が向上した。
野菜	トマト	ハウス内環境データ比較による高収量栽培技術の検討	福岡市 糸島市	高収量農家のハウス内環境データと生育調査データを、他農家と比較して高収量栽培技術を明らかにする。
野菜	イチゴ	光反射を利用した高設栽培収量増効果の実証	糸島市	イチゴの高設栽培において、ビニルハウス谷部に光反射資材を設置し、草冠に反射させて光環境を改善することで、ほ場の生育ムラを改善するとともに収量向上を図る。
野菜	アスパラガス	アスパラガス栽培における光反射資材を利用したアザミウマ類防除の検討	糸島市	ハウスサイドの外側地面に光反射資材（タイベックシート）を被覆しアザミウマ類のハウス内への飛び込み防止効果を昨年引き続き調査した。昨年より効果は劣るが試験区のアザミウマ捕殺頭数は対照区より少なく被覆による飛び込み防止効果が認められた。
野菜	ナス	ベリマークSCのナスのアブラムシ類に対する防除効果	糸島市	苗かん注施用で、慣行農薬と同等の効果が認められた。また、天敵に影響がないため普及性が高い。
野菜	ブロッコリー	ベリマークSCのブロッコリーのコナガに対する防除効果	糸島市	苗かん注施用で、慣行農薬と同等の効果が認められ、また、天敵に影響がないため、普及性が高い。

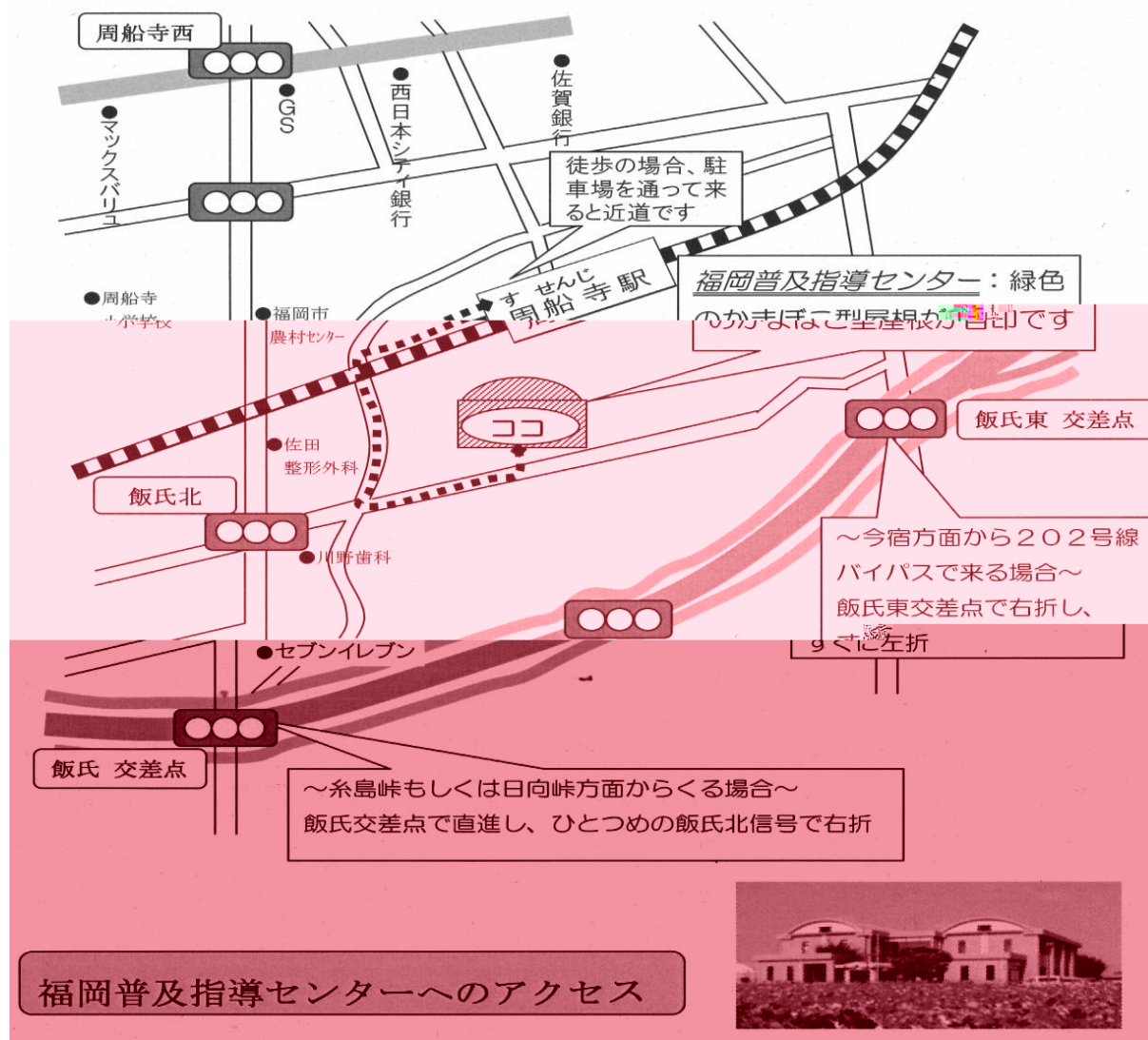
係名	対象物	課題名	設置場所	要約
花き	スプレーギク	白色系品種の比較	糸島市	秋系（白）の主力品種で変異体が発生し、穂が販売中止となったため、主力品種候補の品種特性調査を実施した。
花き	トルコギキョウ	RTF苗のトルコギキョウ秋出荷作型における適応性	糸島市	花芽分化時期にばらつきが発生し、収穫時期が不揃いになる秋出荷作型において、花芽分化態勢にある大苗（RTF苗）を定植し草丈と枝数の確保を図ったが、効果の実証はできなかった。
花き	トルコギキョウ	トルコギキョウの3月出荷作型の実証	福岡市	春出し作型の主力品種である「レイナホワイト」の大苗定植、電照、昼温確保及び炭酸ガス施用による3月出荷技術の実証を行った。
花き	マーガレット	マーガレットの年内出荷が可能な品種の選定	福岡市	①在来系統、②早生系統、③導入メリクロン苗を比較した。採花時期はほぼ同等であった。次期課題として、夏季の高温による株枯れを回避する方法の検討が必要である。
果樹	カンキツ	エクシレルSEのカンキツのチャキイアザミマに対する防除効果	糸島市	今年度は、チャキイアザミマの発生が少なく、効果の判定は出来なかったが、薬害や汚れは見られず、使用については問題ないことが確認された。
果樹	カンキツ	摘果時期および方法の違いが「早味かん」の果実品質に及ぼす影響	糸島市	6月上旬に25葉に1果で摘果を行う早期摘果区で肥大が優れる結果となった。品質も大きな問題はなく、今後の指導に活用する。
果樹	カンキツ	「北原早生」のフィガロン乳剤処理の検討	糸島市	フィガロンを2回処理した区で、肥大が抑制され、着色が促進されたが、糖度への影響が見られなかったため、今後も調査を継続し効果の確認を行う。
果樹	カンキツ	ターム水和剤が「不知火」の果実品質に及ぼす影響	糸島市	散布後2ヵ月程度は肥大促進効果が見られなかったが、その後、やや肥大効果が見られた。今後も調査を継続し効果を確認する。
果樹	ブドウ	環状剥皮処理が「シャインマスカット」に及ぼす影響	糸島市	樹勢が強すぎて、環状剥皮効果が見られなかった。次年度は適正な樹勢となるように樹幹占有面積を拡大後に再度調査を行う。
果樹	イチジク	ひこばえを活用した「とよみつひめ」の新しい樹形の模索	筑紫野市	一文字整枝とひこばえを結果枝として活用した樹で比較したところ、ひこばえ活用区は、収穫開始時期はやや遅れたものの、糖度や果皮色については差は見られなかった。
畜産	WCS用イネ(たちすずか)	WCS用イネ専用基肥一発肥料の肥効及び実用性の確認	宗像市	「たちすずか」専用基肥一発肥料（専用一発肥料）は、既存WCS用基肥一発肥料に比べ、乾物全重が多かった。一方、慣行分施との比較では、収量が減少し穂重割合が高まる傾向がみられた。次年度は施用量の検討が必要。
畜産	WCS用イネ(たちすずか)	「たちすずか」の栽培実証	福岡市	栽培こよみに沿った肥培管理を施した試験区と無施肥（堆肥施用のみ）の慣行区を設置し、比較試験を実施。試験区の穂重割合は、慣行区に比べ半減した。
畜産	水稻	水稻への堆肥施用効果の検証	福岡市	堆肥施用区と無施用区を設置し、比較試験を実施。堆肥2年連用の堆肥施用区は、基肥の無施肥が影響し、生育、収量性ともに無施用区を下回った。



る

戸

福岡県行政資料	
分類番号 PA	所属コード 4703119
登録年度 27	登録番号 0001



福岡普及指導センターへのアクセス

福岡県福岡農林事務所 福岡普及指導センター

〒819-0371 福岡県福岡市西区飯氏902-1

電話：092-806-3400 ファクシミリ：092-806-3367

ホームページ：http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuoka-fukyuusidoucenta.htm

E-mail：fukuoka-dlc@pref.fukuoka.lg.jp